

# みかえりの柏

(みかえりのかしわ)



【所在】

鷹栖町 22 線 13 号

【指定年度】

昭和 5 4 年

【標柱建立】

昭和 5 4 年

## 開拓者の心に残る柏の木

丸山自然道路の北側に、道路の真中にそびえ立つ柏の大木があった。樹齢 150 余年、径 70 cm、樹高 15m 位あり、この丸山のシンボルの存在であった。開拓当時から人々は、この柏の木を目安にして部落から町へ出入りしていた。

ある時、道路の真中にある木は「交通の妨げになる」と切ろうとしたが、男の手足がしびれて木を切ることが出来なかったという話が残っている。一つの道祖人的役割をもって見られてきた柏で、後に道路は舗装されたが、町の好意によって道路はこの木のところを曲げて付けられた。この木も昭和 60 年 4 月 29 日の強風で倒伏した。柏の木の二代目は今も道に残されている。

樹下に見返り地蔵もあり、遠く町外から木に宿る山の神をお詣りに来る人もいる。この木から奥に進むと、通称「影の沢」と呼ばれた維文地区に入る。この一帯は旧大矢農場のあったところで、低いところでは泥炭地、高いところは火山灰地と条件の悪いところであった。

従って、凶作が続き借金がかさむと、年の暮れにはわずかの飯米と親子を馬櫓に乗せて、淋しくこの地を離れる人もいた。そんな時、忘れられないのが、道路の真中にぽつんと立つ柏の木であった。振り返り々、知らない土地に旅立って行ったのである。